

平成28年3月10日

記者会見資料

高齢者施設における利用者虐待殺人はなぜおこったか ～全老健の視点からのメッセージ～

公益社団法人全国老人保健施設協会

高齢者施設における虐待の記事

・「口に塩を押し込んだ」を認定、高齢者暴行で逆転有罪(福岡)

(平成27年7月15日産経新聞)

・大阪・豊中の老人ホームで入所者虐待(川崎3人死亡の施設運営会社と同系列)

(平成27年9月14日産経新聞)

・介護施設で認知症高齢者にプロレス技「4の字固め」の虐待(広島)

(平成27年12月1日産経新聞)

・服の上からシャワー 北海道の高齢者施設で虐待

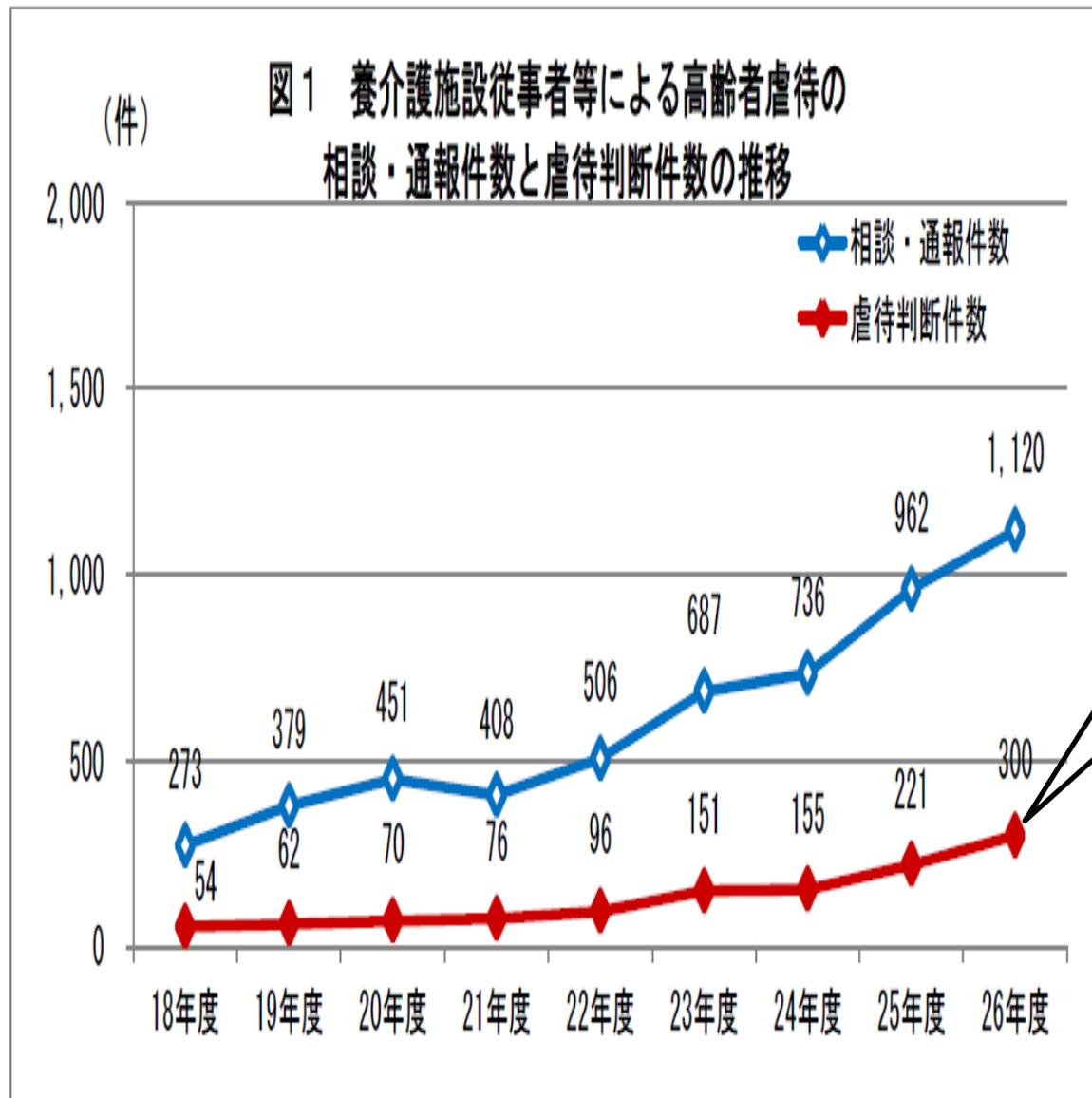
(平成28年2月11日苫小牧民報)

・元職員を殺人容疑で逮捕

川崎市の高齢者施設で転落死亡

(平成28年2月16日朝日新聞)

高齢者虐待の判断件数、相談・通報件数の推移

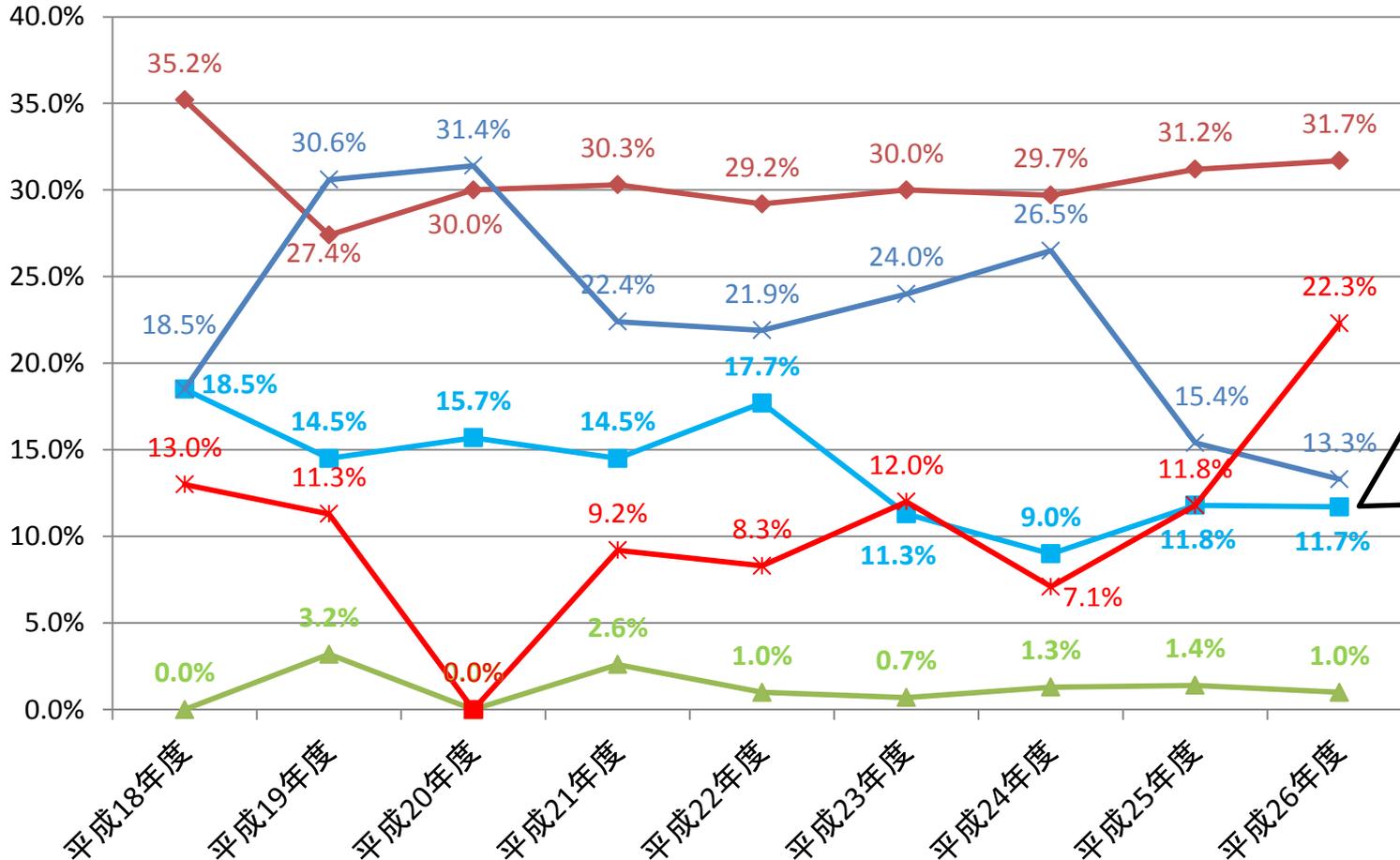


18年度より
約6倍
に増加

虐待の事実が認められた事例の件数(施設種別)

(全体の件数に占める割合)

- ◆ 特別養護老人ホーム
- 介護老人保健施設
- ▲ 介護療養型医療施設
- × 認知症対応型共同生活介護
- * 有料老人ホーム



18年度より
約**7%**
抑えられている。

介護老人保健施設リスクマネジャー

介護老人保健施設リスクマネジャー資格制度の創設

平成17年より管理運営委員会リスクマネジメント部会にて検討

老健施設におけるリスクマネジメントの考え方等は、議論を重ねマニュアル本などを編集し周知してきたが、それを現場にどう定着させていくかが課題であった。

⇒ひとつの方策として資格制度の検討を開始(平成17年～19年＝足掛け3年)

全老健初の資格認定制度

「介護老人保健施設リスクマネジャー」の創設(平成19年11月)

介護老人保健施設リスクマネジャー資格とは

老健施設を取り巻くリスク(転倒・転落による事故、施設内感染、個人情報保護、職員間のトラブル、地域との連携ミス、自然災害など)を包括的に把握し、事後対応だけでなく、事前リスクも視野に入れて現場の中心となってリスクマネジメントを行う人材を養成する制度。

平成20年度 リスクマネジャー資格試験実施＝第1期224名が合格
以降、毎年約200名程度が合格

現在、**約1,650名**の介護老人保健施設リスクマネジャーが活躍中！

介護老人保健施設リスクマネジャー 資格試験制度の概要

リスクマネジャー養成講座 I 期 カリキュラム(16.75時間)

1日目	
【解説】全老健リスクマネジャー資格について	10分
【講義】老健施設の今後とリスクマネジメント	50分
【講義】リスクマネジメント法律論(賠償責任等)	90分
【講義】リスクマネジメント法律論(債権回収等)	90分
2日目	
【講義】ヒューマンエラー対策	180分
【講義】老健施設における感染症の発生に対する具体的対応	60分
【講義】コーチングについて	60分
【パネルディスカッション】災害対応について	120分
3日目	
【ワークショップ】転倒・転落についてとことん考えよう!	180分
【講義】サービス管理論:利用者との信頼関係、苦情対応と顧客満足	150分
【講義】選ばれる老健を目指して	15分
計	1005分

介護老人保健施設リスクマネジャー 資格試験制度の概要

リスクマネジャー養成講座 II 期 カリキュラム(17.5時間)

1日目	
【ワークショップ】老健施設のリスクマネジメント	180分
【講義】医療過誤への対応について	90分
2日目	
【講義】労務管理について	60分
【講義】職員のキャリアアップについて	45分
【講義】メンタルヘルスについて	45分
【演習】事例を用いた対策立案の実際	60分
【講義・演習】職員間のコミュニケーション	135分
【演習】安全向上のアクションプラン	75分
3日目	
【講義】リスクマネジメントと保険の機能	45分
【講義】老健施設における在宅復帰率・回転率、および個人情報の取扱いについて	60分
【講義】指導・監査への対応とコンプライアンス	60分
【パネルディスカッション】事例から考える老健施設のリスクマネジメント	135分
【講義】まとめ～望まれるリスクマネジャーとは～	60分
計	1050分

介護老人保健施設リスクマネジャー資格制度の概要

●リスクマネジャー養成講座の受講

3日間×2回（Ⅰ期・Ⅱ期）／年 **約33時間**のカリキュラム（講義及び演習）

受講要件：
・会員及び会員施設（の法人）の職員で管理的役職者であり会員推薦のある者
・支部事務局の職員で支部長の推薦のある者



●資格試験申込、インターネット模擬試験（e-learning）



●認定資格試験、合格発表



●資格の更新（5年ごと）

- ・資格更新試験（e-learningによる更新試験を予定）を受験
- ・更新までの5年間に開催される全国介護老人保健施設大会に必ず1回は参加すること（全国大会の参加登録がなされていること）
- ・全国大会参加が出来なかった場合は、指定された課題によるレポートを提出

特典

リスクマネジャー資格取得者が会員施設の職員である場合、当該会員施設が介護老人保健施設総合補償制度の賠償事故補償制度に加入する保険料が**20%割引**
（複数資格取得者がいる場合25%割引）

介護の質の評価につながるアセスメント -リスクマネジメント-

R4システムによるリスクマネジメントなし

R4システムによるリスクマネジメントあり

誤嚥性肺炎

		入所後の誤嚥性肺炎の発症	
		なし	あり
誤嚥性肺炎既往なし	n	340	9
	%	97.4%	2.6%
誤嚥性肺炎既往あり	n	18	6
	%	75.0%	25.0%
オッズ比		12.6 (4.0-39.2)	

		入所後の誤嚥性肺炎の発症	
		なし	あり
誤嚥性肺炎既往なし	n	316	6
	%	98.1%	1.9%
誤嚥性肺炎既往あり	n	16	2
	%	88.9%	11.1%
オッズ比		6.6 (1.2-35.2)	

利用者の既往の把握、情報共有、多職種共同の予防により
誤嚥性肺炎・褥瘡の発生がハイリスク者(既往あり)で約半分以下に

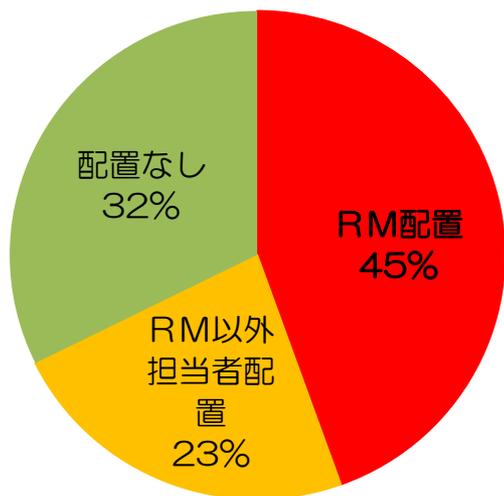
褥瘡

		入所後の褥瘡の発生	
		なし	あり
褥瘡の履歴なし	n	297	19
	%	94.0%	6.0%
褥瘡の履歴あり	n	28	19
	%	59.6%	40.4%
オッズ比		12.6 (4.0-39.2)	

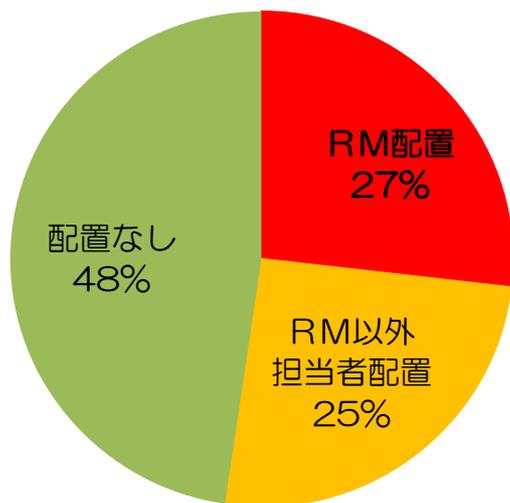
		入所後の褥瘡の発生	
		なし	あり
褥瘡の履歴なし	n	272	22
	%	92.5%	7.5%
褥瘡の履歴あり	n	30	7
	%	81.1%	18.9%
オッズ比		6.6 (1.2-35.2)	

在宅復帰評価別RMの配置状況

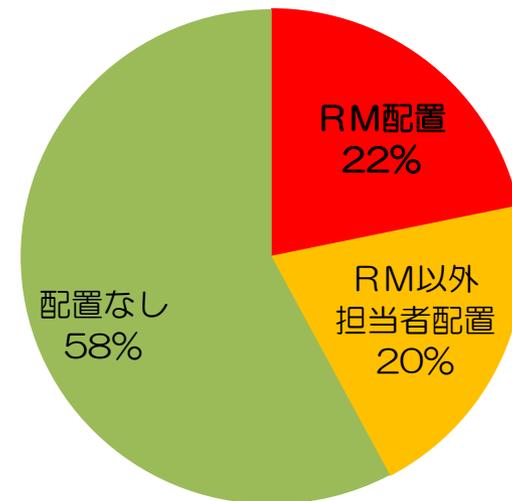
在宅強化型
N=171



在宅支援加算型
N=305



従来型
N=536



介護サービスにおける安全管理体制

平成18年度介護報酬改定において、
介護老人保健施設及び介護老人福祉施設に、

「介護事故に対する安全管理体制の確保」

が、人員等の基準において明記され、介護施設におけるサービスの質の向上の取組みの充実が図られた。

（事故の発生、再発を防止する措置として、事故防止指針の整備、施設内での事故情報と改善策の情報共有、事故防止委員会と従事者研修の定期的実施を行うことが規定されている。）

介護老人保健施設リスクマネジャーを導入した施設では、以下の効果が見られている。

- ・ **インシデントレポート[※]の報告数が増加**
⇒ K施設では、導入後4年間で 44倍に増加
- ・ **リスクマネジメント委員会の開催回数が増加**
⇒ P施設では、導入後3年間で年2回が年10回に増加し、現場に定着
- ・ **転倒事案の発生回数が減少**
⇒ A施設では、導入後4年間で4割減少